

## 学校評価シート（自己評価）

松山南

幼稚園

### 1、園の教育目標

#### （教育方針）

心身共に健全な幼児の発達のために適切な環境のもと集団生活を通して幼児の自主性を育み豊かな人間性を養うべくこの時期に必要な諸能力の開発を助長し時代の変化に対応できる未来の子どもを育てる幼児教育を推進する。

#### （教育目標）

丈夫なからだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

### 2、具体的な目標や計画

#### （重点的に取り組むべき目標や計画）

令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を踏まえ安心安全な生活を配慮する中で子どもたちが伸び伸びと活動できる環境を整え自主性を育み共有体験を増やし豊かな心を育てていく。

### 3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
I 保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの遊び、興味から今の子どもたちの発達を理解し活動に取り入れられるよう柔軟な保育計画を立てていった。</li> <li>・コロナ禍で園全体では開催が難しい季節ごとのイベントをクラスの中で遊びの中に取り入れられるよう制作等を計画していった。</li> </ul>
II 保育の在り方・ 幼児への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、登園時の視診を特に大切にし、体調を確認するよう常に心掛けた。また、幼児の変化に気づけるようになった。</li> <li>・幼児が苦手な事でも自ら行えるような声掛けをし、できたことをたくさん褒め自信に繋げた。</li> <li>・子どもの話に耳を傾け一人ひとりにスキンシップをとり心の安定を図った。家庭との連携連絡を密にとつていった。</li> </ul>

<p>Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の発言、行動が子どもたちに影響を与えるということを自覚し挨拶や感謝の気持ちを言葉で伝えている。</li> <li>・保育者自身もわからないこと、不安なことは園長や主任に相談するように心がけている。また、子どもとクラスの出来事などで必要なことは、園長や主任に報告、連絡、相談している。</li> </ul>
<p>Ⅵ 保育の専門性に関する研修・研究への意欲・態度</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインやリモートでの研修のシステムが整ってきた。</li> <li>・研修会に目的意識をもって意欲的に参加し自分なりに保育に生かしていくことができた。</li> <li>・園内研修では研修用のDVDを活用することにより、保育の専門知識を高めることができた。</li> </ul>

#### 4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者のアンケートから園行事に子どもたちが喜んで参加できた様子がうかがえた。今年度は運動会を同日に学年別の開催、またお遊戯会も東松山市民文化センターで同日に学年別開催を試みた。学年別ということもあり短時間の開催が保護者や園児にとって様々な観点でよかったようである。教職員については、互いの学年の補助、役割を決め全員で全ての学年の行事を互いに手伝うことで短時間に進めることができた。事前の話し合い準備に時間を要したがこの経験を次年度にいかしていきたい。</li> <li>・昨年に引き続き夏祭りは園内で小規模の取り組みで行ったが昨年以上に計画、準備が行え子どもたちにとって楽しい取り組みになったと思う。</li> <li>・参観日がほとんど行えず、保護者に園内の様子を観て頂くことができなかったが、学年だよりで日常の様子を写真や文章で伝えていった。</li> <li>・職員室にパソコンを設置しリモート研修やDVDを活用しての研修機会を増やすことができた。更に教員の研修意識が高まってきた。</li> </ul>

#### ○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

## 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
I 保育の 計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちがより豊かにのびのびと活動ができるように、活動の展開に応じて遊びが広がっていくような環境構成を計画していく。</li> <li>・園行事はコロナ禍で状況を加味しながら子どもたちが発揮しやすい場面を保護者の方にも観て頂ける内容で開催していく。</li> </ul>
II 保育の在り方・ 幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの幼児を受け入れながら発達の姿や課題について理解し援助していく。</li> <li>・異年齢児クラスとの関わりが少なく名前がわからないこともあるのでコロナ禍でも触れ合えるような工夫、形態を取り入れていく。</li> </ul>
IV 保護者への対応・ 守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの相談されたことはすぐに対応し正確に記録をとって伝えるように心がけているが、電話対応は相手の表情がうかがえず要領をつかんで相手に伝えていくことが難しい。時間をとって直接面談での対応を心掛け互いの理解を深めていく。</li> <li>・個人記録等終業時間に間に合わず持ち帰ってしまうこともあるので効率化を図り園内で処理し保管していく。</li> </ul>
V 地域の自然や 社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は園周辺の地域の方との挨拶を積極的にかかわすことを心掛けており、幼稚園に対しても親しみを持っていただいているが園児の生活の周囲の場を含めて地域社会との連携を築けるようにしていく。</li> <li>・コロナ禍で。卒園した子どもたちの交流の場を設けることが難しい。小学校とのつながりを意識し小学校の教育内容についても理解を深めていく。</li> </ul>

# 学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 2022年 3月 23 日（火）

10:00 ～ 11:00 （時間）

出席者 評価委員（ 4）人

評価委員（ 4）人

## 1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

新型コロナウイルスが未だに拡大している中の保育であったが、昨年度の保育、行事等の取り組みを参考にしながら、より良い園生活を子どもたちが送れるよう目標・計画・課題を設定していることから適切であると考えます。

## 2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・客観的に自分自身を判断しており、適切だと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を念頭に置き、行事や保育内容を計画したことが職員の自己評価についても健康と安全への配慮の項目の評価が高いことなど見て取れる結果となっているので適切であると考えます。
- ・運動会やお遊戯会を学年別に行ったことで子どもたちの集中力、体力等の負担が少なかったように思う。参観日や園外保育がほとんどなく園内での活動だけで残念だが子どもたちの健康を守るには適切だったと思う。

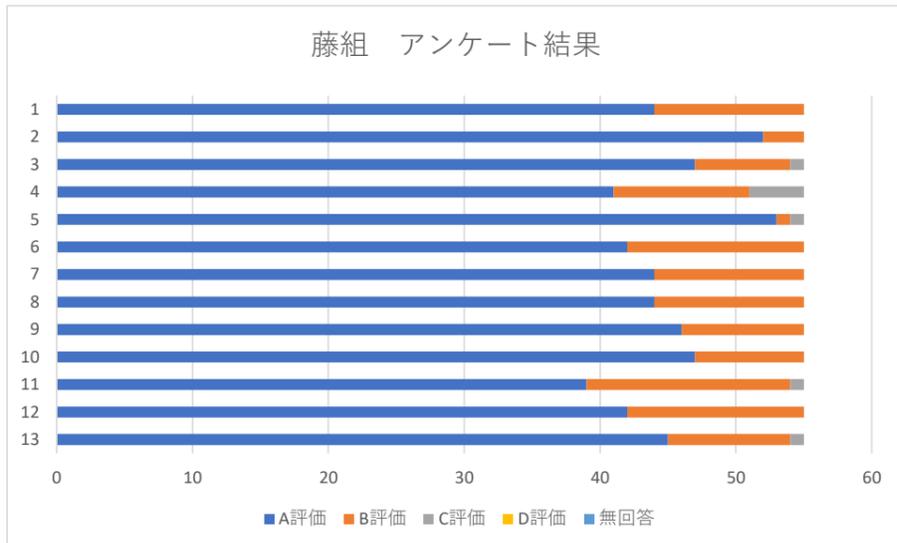
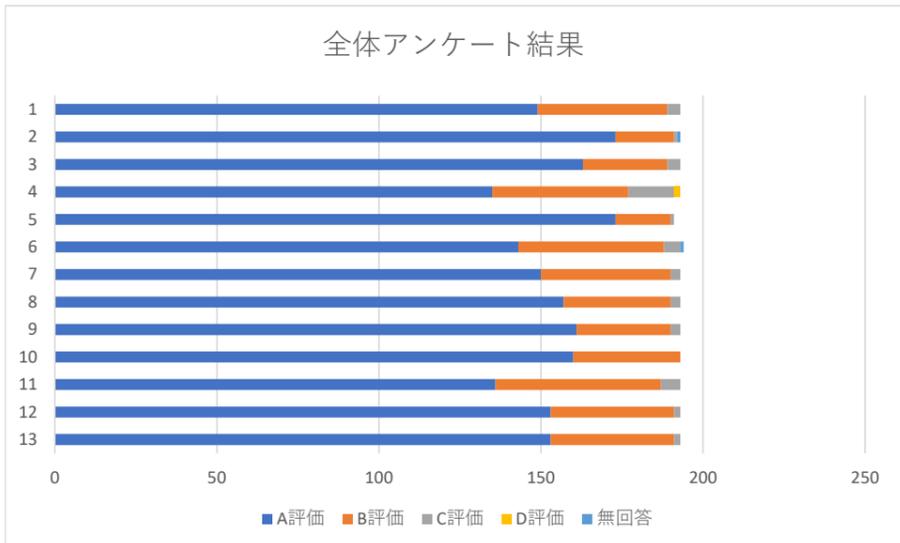
## 3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

昨年度の自己評価を活かしながら今年度取り組むべき課題を設定しており、適切であると考えます。

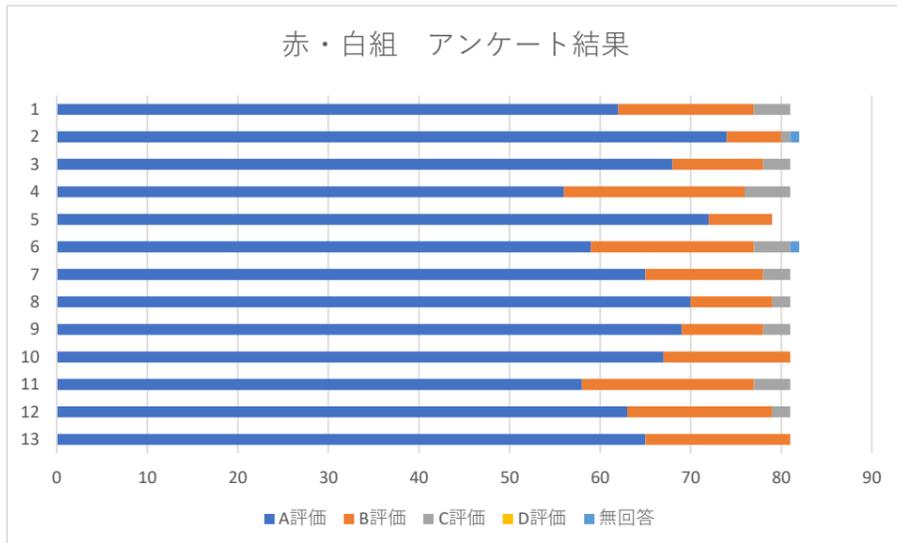
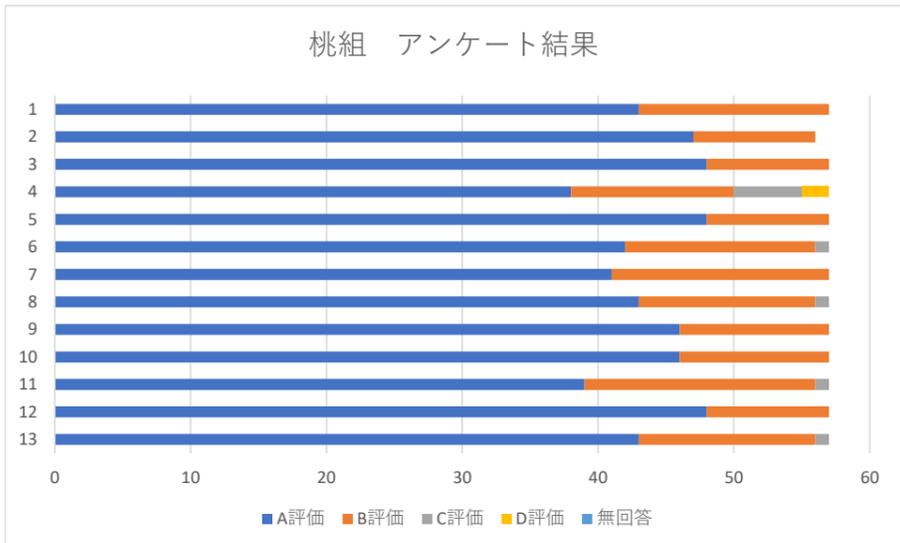
## 4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・コロナ禍で様々な制限がある中で、今年度までの課題や反省点を踏まえて今後の取り組むべき課題が設定されている。
- ・保護者のアンケート結果より、園との連携や園での子どもの様子について保護者の要求めが大きいようなので、コロナ禍ではあるが課題にあるように工夫をして保護者に保育の様子や子どもの活動している姿を発信していくことが大切だと思われるので課題の設定は適切である。
- ・地域の方との関わりについては、挨拶を含め、ほとんどの項目で低い結果となっている。  
コロナ禍で仕方がない部分ではあるが具体的に今どのような連携ができるか、小学校との連携についても課題としてあげられていることから適切であると考えます。

自己評価にあたって保護者アンケート結果



- | 番号 | アンケート内容項目                   |
|----|-----------------------------|
| 1  | お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしている       |
| 2  | お子さんは先生を慕っている               |
| 3  | お子さんは幼稚園で友達との関わりを楽しんでいる     |
| 4  | お子さんは幼稚園の出来事を家で話している        |
| 5  | お子さんは諸行事に喜んで参加している          |
| 6  | お子さんは幼稚園生活で自主性がめばえたと思う      |
| 7  | 教師は子ども達の良い所を見つけ伸ばそうとしている    |
| 8  | 教師はお子さんの幼稚園生活をよく見ている        |
| 9  | 教職員はお子さんの健康や安全確保に努めている      |
| 10 | 幼稚園の雰囲気は明るい印象が感じられる         |
| 11 | 幼稚園と保護者の連携がとれている            |
| 12 | 幼稚園は環境設備に配慮している（園舎・園庭・遊具など） |
| 13 | 幼稚園のおたより、通信などわかりやすく伝えている    |



自己評価結果

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率
I-1-①	保育の計画性	1.園の教育理念・教育方針の理解	園の教育理念や教育方針を理解し共感している	66.67%
I-1-②			園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる	47.22%
I-2-①		2.幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解	幼稚園教育要領、幼児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	57.58%
I-3-①		3.教育課程の編成と評価	園の教育課程は、幼稚園教育要領・保育所保育指針をふまえて園の教育理念・教育方針に従い編成している	72.22%
I-3-②			1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している	77.78%
I-3-③			園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	63.89%
I-4-①		4.指導計画の作成	指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	77.78%
I-4-②			行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている	83.33%
I-5-①		5.環境の構成	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	77.78%
I-5-②			楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	80.56%
I-5-③	幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている		66.67%	

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率				
				0.00%	50.00%	100.00%	150.00%	
I-5-④	I		幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	I-5-④	69.44%			
I-5-⑤			異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	I-5-⑤	38.89%			
I-6-①		6.保育と計画の評価・反省	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	I-6-①	83.33%			
I-6-②			お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている	I-6-②	22.22%			
II-1-①	II 保育の在り方、 幼児への対応	1.健康と安全への配慮	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認している	II-1-①	94.44%			
II-1-②			体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	II-1-②	94.44%			
II-2-①		2.幼児のみとりと理解	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している	II-2-①	66.67%			
II-2-②			一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	II-2-②	63.89%			
II-2-③			個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	II-2-③	55.56%			
II-3-①		3.指導とかかわり〔心のよりどころとして〕	3-1.一人ひとりの観察と受け入れ	幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている	II-3-①	86.11%		
II-3-②				幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている	II-3-②	91.67%		
II-3-③				幼児の話をよく聞くようにしている	II-3-③	94.44%		
II-3-④				“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている	II-3-④	63.89%		
II-3b-①			3-2.言葉かけ	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	II-3b-①	69.44%		
II-3b-②				幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	II-3b-②	77.78%		
II-3b-③				禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	II-3b-③	75.00%		
II-3c-①			3-3.家庭環境やこれまでの成育歴などを考慮してかかわっている	幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	II-3c-①	77.78%		
II-3c-②				障がい児が入園した時、個別の対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている	II-3c-②	66.67%		
II-3d-①			4.保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している	II-3d-①	84.85%		
II-3d-②		指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている		II-3d-②	72.22%			
II-3d-③		他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている		II-3d-③	25.00%			
III-1a-①		III 保育者としての 資質や能力・良識・ 適性「専門家としての	1a.専門家としての能力	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている	III-1a-①	69.44%		
III-1a-②				保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	III-1a-②	75.00%		
III-1a-③	保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている			III-1a-③	75.00%			
III-1a-④	保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している			III-1a-④	91.67%			
III-1b-①	1b.良識とマナー		幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている	III-1b-①	86.11%			
III-1b-②			朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	III-1b-②	94.44%			
III-1b-③			園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	III-1b-③	97.22%			
III-1b-④			服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	III-1b-④	94.44%			
III-1c-①	1c.義務		教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	III-1c-①	88.89%			
III-1c-②			締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	III-1c-②	91.67%			
III-2-①	2.組織の一員としての在り方		他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	III-2-①	69.44%			
III-2-②			子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	III-2-②	94.44%			
III-2-③			当番や役割による仕事を理解し確実に実行している	III-2-③	88.89%			
III-2-④			上司の指示、命令には責任を持って実行している	III-2-④	88.89%			

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率			
				0.00%	50.00%	100.00%	150.00%
III-3-①	能力	3.まわりを感じ取る感性・アンテナ	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	III-3-①	52.78%		
III-3-②			社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	III-3-②	72.22%		
IV-1-①	IV 保護者への対応・守秘義務	1.情報の発信と受信	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	IV-1-①	30.56%		
IV-1-②			クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている	IV-1-②	66.67%		
IV-1-③			個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合い共通理解を得るように努めている	IV-1-③	72.22%		
IV-1-④			子どもにとってよりよい環境づくりに努めている	IV-1-④	80.56%		
IV-1-⑤			保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	IV-1-⑤	86.11%		
IV-1-⑥			子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	IV-1-⑥	75.00%		
IV-2-①		2.協力と支援	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている	IV-2-①	91.67%		
IV-2-②			必要な場合は、自園の問題の対応や手段について保護者に説明できる	IV-2-②	50.00%		
IV-3-①		3.守秘義務の遵守	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	IV-3-①	100.00%		
IV-3-②			秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	IV-3-②	100.00%		
IV-3-③			秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	IV-3-③	97.22%		
IV-3-④			秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている	IV-3-④	88.89%		
IV-3-⑤			秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	IV-3-⑤	94.44%		
IV-3-⑥			秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している	IV-3-⑥	97.22%		
IV-4-①		4.対応上のマナー・良識	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	IV-4-①	83.33%		
IV-4-②			親しくなったからといっても、友達同士のよう話しかけをしていない	IV-4-②	88.89%		
IV-4-③			電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	IV-4-③	80.56%		
IV-4-④			保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	IV-4-④	91.67%		
IV-4-⑤			長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	IV-4-⑤	55.56%		
IV-4-⑥			保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	IV-4-⑥	97.22%		
IV-5-①	5.クレームへの対処の仕方	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	IV-5-①	97.22%			
V-1-①	V 地域の自然や社会とのかわり	1.地域の自然・人々とのかわり	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	V-1-①	47.22%		
V-1-②			地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	V-1-②	30.56%		
V-1-③			子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している	V-1-③	22.22%		
V-1-④			実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	V-1-④	72.22%		
V-2-①		2.小学校との連携	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	V-2-①	94.44%		
V-2-②			小学校の教育内容について理解するよう努めている	V-2-②	33.33%		
V-2-③			小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている	V-2-③	19.44%		
V-2-④			卒業した子どもの情報を得よう努めている	V-2-④	22.22%		
V-2-⑤			小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている	V-2-⑤	44.44%		
V-2-⑥							
VI-1-①	VI 保育者の	1.研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	VI-1-①	62.50%		
VI-1-②			自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている	VI-1-②	78.79%		
VI-2-①		2.遊具・教材に関する専門	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	VI-2-①	80.56%		

項目番号	大分類	中分類	項目
VI-2-②	専門性に関する研修・研究への意欲・態度	性の向上	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる
VI-3-①		3.園内の環境に関する専門性の向上	園舎の構造（平屋、二階建て）や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している
VI-3-②		性の向上	園庭や田畑、砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている
VI-4-①		4.今日的課題に関する専門性の向上	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている
VI-4-②			アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている
VI-4-③			幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている
VI-4-④			こどもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている
VI-5-①		5.自らを高めるための学習	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある
VIII-1-①	おてける支援子育てに	1.自園の子育て支援事業の理解（全教職員）	地域開放（親子保育園体験日・行事など）について職員間で共通理解の上取り組んでいる
VIII-1-②			自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる
VIII-1-③			親しみやすい雰囲気を心がけ、利用者に積極的に声をかけている

